

保育所統廃合

問 今後の計画は

答 保育問題検討委員会の意見及び旧長浜町での検討委員会の答申に基づき、本年度は柳沢保育所と沖浦保育所を閉所したいと考えています。

柳沢保育所の本年度入所児童数は5人で、今後も減少傾向にあり、新谷保育所との統合を考えています。

沖浦保育所は、現在借地である保育所用地の契約期間が平成20年3月末であることから、長浜保育所との統合を考えています。

なお、閉所に伴う児童の送迎は現在既にバス送迎を行っており、問題ないものと考えています。

保育所の統廃合については、今後も保護者や地域住民の方々に十分な説明などを行い、ご理解を得た上で取り組みたいと考えています。

観光行政

問 うかい観光の現状と抜本的対策は

答 うかいの利用者数は長引く景気の低迷や余暇利用の多様化などから、近年は平成6年の2万1,000人をピークに減少傾向にあり、平成18年は過去最低の約1万1,000人台でした。本年は6月は好天が続き、昨年を上回る利用者数でしたが、7月は天候不良により昨年度を大きく

下回る結果となり、8月も大洲川まつり花火大会が台風の影響で延期となり、花火大会時の利用者数が例年の7割程度に落ち込む残念な結果となりました。

今年度は市観光協会と連携し、50周年記念事業「うかい50（ゴーマル）キャンペーン」として、8月にはうかいに対する知識と理解を広く深めていた。だこうと市内の小学生以下の児童を対象に「夏休みこどもうかい教室」や安価にうかいを楽しんでいただくための「家族でうかい」、「50代ペアでうかい」を企画、実施し、うかい振興に努めました。

うかい振興に努めました。今後は、観光協会やうかい登録店組合等とともに、過去のデータや利用者のニーズ等を分析し、集客増につなげる方策について検討を進め、今後はうかい事業と長浜、脇川、河辺地区の魅力ある観光資源等を有機的に連携させながら、体験型のセットメニューや長期滞在型観光商品の開発に向けて検討をしていきたいと考えています。

環境問題

問 さらなるごみ減量・資源化に対する取り組みを

答 当市は、平成11年度より指定ごみ袋による6

種分別収集を実施してきましたが、依然として多くの紙類が燃やすごみとして排出されているため、広報紙やごみ分別チラシ等に雑紙の出し方を掲載し、紙類のリサイクル推進を図っています。今後も広報等によるさらなる意識啓発や研修会、市民の集いなど各種機会をとらえて、紙の再資源化への協力をお願いしていきたくと考えています。

昨年、改正容器包装リサイクル法が成立したこともあり、現在の分別方法を見直す時期にきており、廃プラスチックを含め容器包装のリサイクルについて最優先に検討し、廃食用油の回収を含め、ごみの減量化及びリサイクル

の推進に順次取り組みを進めていきたくと考えています。



山鳥坂ダム建設

問 新たなクマタカ力の取り扱いとその影響は

答 クマタカについては、環境検討委員会並びに

準備書に対する県知事意見等を踏まえて、クマタカに対するモニタリング調査の頻度を上げて継続的に実施されています。今後、幼鳥の巣立ちの状況などを踏まえ、環境影響評価書にどのように反映していくのか、環境検討委員会の意見を聞いて対応するとの報告を受けています。

県道の工事への影響等については、現段階では判断できませんが、地域の生の声を国・県へ要望していくことや、大事な地域住民の生活、安全を考えていく必要があり、先般、道路用地関係者をはじめ、地域の方々の同意をいただき、現在、その調査が進んでいます。環境影響評価書の終了後、工事用道路の工事着手が可能となるよう、国・県等の関係機関に対し、強く要望していくとともに、地元との調整や諸手続を推進していきたいと考えています。



こどもうかい教室